

恩師を偲んで

5年前の2011年7月11日に突然母校岸和田市立産業高校(以下：岸産高)の恩師I先生から私の事務所に電話がありました。

I先生「ワタル、久しぶりやの、今日事務所にいるか？」私「あー先生、ほんま久しぶりですね！どないしはりましたん急に！」I先生「実はな、ちょっと話聞いてほしいんや」私「良いですよー。先生、よー連絡先分かりましたね！」I先生「お前有名やからな(笑)」私「センセー、からかわんといて下さいよ(笑)」。後で考えたらその数年前に母校のOB会の名簿に勤務先と連絡先を載せたのでそれを見たのだと思います。

後に私の事務所にて。I先生「実はわしな、K高校の進路指導部の顧問になって週に一度出勤することになったんや」(K高校はI先生が私の母校に転勤する前に教師をしていた高校です)。「それでお前の事務所でK高校の卒業生採用してもらわれへんかなあ」私「そうですか。今のところ人を採用する予定はないんですけど・・・。私の顧問先様に声かけてみますわ」I先生「そうかそれは残念やな！そしたら資料おいていくさかい、気つけといてなあ」私「この暑い時期でもきちんと背広着てはるんですね。私なんか半袖のシャツですけど」I先生「そらお前、礼儀やからなあ」(無礼をお許し下さい)私「ところで、先生いくつになられたんですか」I先生「お前こそいくつになったんや(笑)」私「もう47歳ですわ。高校卒業して30年位になるんですね」I先生「わしはちょうど70や」私「そーですか。お元気で何よりですね」。

そこから暫く雑談し、名刺を3枚もらいました。名刺は今も形見として大事に持っています。1枚はK高校の進路指導部顧問の肩書、あと2枚は公職のボランティア。年金は年に〇〇〇万円もらってるから生活はそれで充分とも言っておられました。話が終わり最後にイスからお互い立ち上がりながら、私「まあ、こんな小さな事務所で細々とやっていますので」I先生「そんな関係ない！小さかろうが大きかろうが経営者は一緒や！」。

私は少数精鋭主義としているのですが、先生の励ましとも思える言葉をいただいたのがものすごくうれしかったです。I先生とはそれっきり、二度とお目にかかることはできなくなりました。昨年2月上旬に高校の同級生から訃報が届き、I先生は1月29日に亡くなられ、家族だけでひっそりと見送られたとのことでした。

I先生は岸産高の定時制を卒業されその後岸産高の教師になられた苦労人です。私が高校の時は野球部の監督をされていました。同時に「生活指導部長」として睨みを利かせ、学校では一番怖い先生として恐れられていました。私が卒業して数年後に監督を後任に譲られ、教頭を経て1992年に晴れて第17代校長になられ2001年の定年まで9年間勤められました。

ある野球の大会の時に私が外野でタイムリーエラーをしてベンチに戻るなり「スイマセン！」と皆に謝るとI先生から「スイマセンですむかアホ！」とカミナリを落とされました。私が落ち込んでいると当時のエースのT君が「気にするなよ！」と言ってポンポンと肩をたたいてくれたのでものすごい救われた気分になりました。後にそのT君の結婚式のスピーチでこのエピソードを紹介するとT君が涙をこぼしていたのを思い出します。

高2の学年が終わろうとしていた野球部の練習の帰りにバットを持った私と当時監督のI先生が学校の正門前でバッタリでくわしI先生から「ワタル帰ってから素振りするんか。3年生になったら頑張ってレギュラーとらなあかんわな！」と当時補欠だった私に一言かけてくれました。その優しい一言とその場面が30数年たった今でも強烈に頭に残っています。

厳しいなかにも優しさがあり、その厳しさは愛情の裏返しともいえます。レギュラーになれた私を含むチームが一丸となって1981年激戦の最後の夏の大阪大会でベスト8まで勝ち進めたのも、I先生の厳しく愛情のこもった指導の賜物だと思います。I先生はカラオケが上手で私らがOBになってから何回かご一緒させてもらいましたが、現役時代には見せなかった優しい笑顔でマイクを持っている姿が目には浮かびます。

I先生、私が挫けそうになったら天国から叱咤激励お願いしますね！